

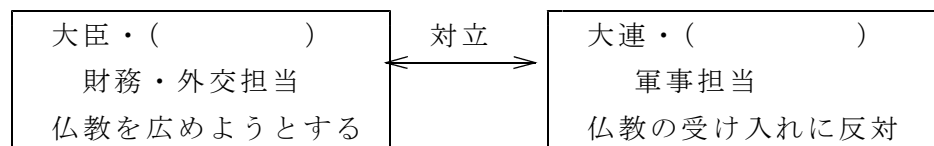
飛鳥の朝廷と文化

6世紀 大和政権

- ・ 有力な豪族の争い
- ・ 国内各地に新しい豪族が生まれる (小さな古墳を作る)
- ・ 豪族と組んで朝廷に反抗する () があらわれる。



大和政権は、国造の反乱をしずめ、地方への支配を強める。



() は、() を滅ぼす。
(崇峻) () を殺害

かわって女帝の () 天皇) が即位。
593年に、おいの () を () とした。



天皇が女性の場合や幼少などの時に
天皇にかわって政治をとる役。

聖徳太子の政治

☆ [] (603年)
豪族に、その氏や家柄だけにとらわれずに、
能力や功績に応じて冠位を与えるようにした。

☆ [] (604年)
儒教や仏教などの思想を取り入れて制定。
天皇中心の国作り (中央集権国家) がとかれている。

☆ 607年 () らを
() として隋におくる。
・ 対等の関係で国交を開こうとした。
・ 留学生や学問僧をつかわし、進んだ文化を学ばせた。

[冠位十二階]

603年、聖徳太子により制定された朝廷内での冠位を示す制度。それまでは氏に対して与えられていた位階を、能力や功績に応じて与えるようにした。位階を徳・仁・礼・信・義・智の6段階に分け、それぞれに大小の別を作った。さらに、それぞれの冠の色を紫・青・赤・黄・白・黒とし、濃淡に分けたので、合計12階が生まれた。

[十七条の憲法]

604年、聖徳太子により制定された、朝廷の役人に対する心構えを説いたもの。漢文で書かれており、内容には、仏教・儒教の影響が強く、天皇中心の国づくりが説かれている。